

'Comfort women' rejected

Prosecutors say their complaint has no legal basis

Citing a lack of legal basis, prosecutors rejected Monday a complaint by a group of former South Korean "military comfort women" who demanded that Japanese Imperial Army officials and civilians be tried for forcing them into prostitution.

The action was taken by six South Korean women representing 26 former comfort women, and the Seoul-based Korean Council for the Women Drafted for Sexual Slavery by Japan, a group that supports the women.

In their complaint, the women accused military officials of war crimes and crimes against humanity. Although they did not identify individuals, the women said the accused include military officers, soldiers and civilians who planned and carried out the systematic drafting and supervising of the women in frontline brothels.

The Tokyo District Public Prosecutor's Office reportedly told the group it could not

handle the complaint because the names of the accused were not specified.

Lee Mi Gyeong, a representative of the Korean council, said the government is responsible for identifying those who were engaged in prostitution by releasing undisclosed wartime documents.

Lee said prosecutors also rejected the complaint on the grounds it exceeded the statute of limitations.

"When I asked officials at the prosecutors' office whether

they knew when military brothels started, those who argued the statute of limitations for rejecting our complaint could not answer it. For me, it seems that there was an agreement beforehand not to receive our complaint," Lee said.

Park Won Soon, a legal adviser for the group, said a statute of limitations does not limit Japan's war responsibility under international law.

He added that people who forced women to provide sex at frontline military brothels could be prosecuted under an international law. Park mentioned one formulated by the International Labor Organization in 1930, which prohibited forced labor and was ratified by Japan two years later.

Lee said the prosecutors' office told them no domestic law could be used to try former members of the army or civilians who drafted comfort women. Park and Japanese legal advisers said the Diet is obliged to legislate laws to punish those responsible for the prostitution.

The prosecutors' office was not available for comment.

Addressing a news conference before submitting the complaint, Kang Duk Gyung, 65, said the women want legal proceedings against all those who planned the "comfort women" system, instructed others to set up brothels and directly managed and supervised the facilities.



FORMER "COMFORT WOMEN" from South Korea call on prosecutors Monday to try former members of the military and civilians who forced them into prostitution at wartime brothels. Their complaint was rejected later in the day.

韓国人元慰安婦が告訴・告発

検察側、受理せず

朝日 2/8 (木)

植民地支配の下で従軍慰安婦制度をつくり、運用したのは違法だとして、旧日本軍から責任者の処罰を求めて、韓国の元慰安婦と市民団体が七日、東京地検に被疑者不詳の告訴・告発状を提出した。しかし、地検側は、国内法では時刻が成立していることなどを理由に受理せず、従軍慰安婦問題で初めて刑事責任を問うことは開けなかった。

告訴状は韓国の女性団体「韓国挺身(ていしん)隊問題対策協議会」、告訴状は韓国人の元慰安婦二十七人の名前で、それぞれ提出された。

告訴・告発状によると、従軍慰安婦は強制や詐欺行為によって連行され、脱出できないよう監視されながら、軍人の性的処理を強要された。軍人の要求に従わなかったと暴行され、満身創痍(そういつ)となった。

このような慰安婦制度は、国際慣習法の「人道に對する罪」にあたるほか、奴隷制度を禁止した奴隷条約、強制労働を禁止した「強制労働に関する条約」に違反している、と来日した「韓国挺身隊問題対策協議会」幹部の李美卿(ミギョン)さん(仮名)は、東京地検側は、国内法で該当する罪名が書かれておらず、あったとしても時刻が成立していても、被疑者(告訴)人も特定できないことを理由に受理しなかった。

不受理について、来日した「韓国挺身隊問題対策協議会」幹部の李美卿(ミギョン)さんは「当時のことを考えると、胸が痛む。なぜか受理されないのか」と話している。

従軍慰安婦

「立案者らに刑事罰を」

東京地検に韓国人女性ら27人告訴・告発

読売 2/7 (水)

旧日本軍の従軍慰安婦とされた韓国人女性たちが、日本側の強制な連行や連行などの行為は国際条約「強制労働に関する条約」など違反するとして、東京地検に告訴・告発状を提出した。韓国人女性ら27人は、元慰安婦として知られる韓国人女性たちを支援している「韓国挺身隊問題対策協議会」(本部、ソウル)が中心となって、東京地検に告訴・告発状を提出した。

告訴状によると、元慰安婦として知られる韓国人女性たちは、元慰安婦として知られる韓国人女性たちを支援している「韓国挺身隊問題対策協議会」(本部、ソウル)が中心となって、東京地検に告訴・告発状を提出した。

告訴状によると、元慰安婦として知られる韓国人女性たちは、元慰安婦として知られる韓国人女性たちを支援している「韓国挺身隊問題対策協議会」(本部、ソウル)が中心となって、東京地検に告訴・告発状を提出した。

「慰安婦制度の責任者(氏名不詳)の刑事処罰を求める告訴状、告発状を東京地検に提出した。しかし同地検は、国内法の体系を取っていないなどとして受理しなかった。

このため民事訴訟に切り替え、国を相手に賠償義務と「不処罰」による賠償義務確認だけを求める訴訟を提起する方針を決めた。提訴は東京地裁か、主に国際舞台でのアピールを狙って国際条約で設置されている常設仲裁裁判所(オランダ)

慰安婦制度の責任者処罰を 東京地検 南朝鮮の女性27人に告訴状

第二次大戦中、旧日本軍の従軍慰安婦にされた南朝鮮の女性27人の代表が七日、東京地検に告訴状を提出した。告訴状は、慰安婦制度が国際法に違反するとして、慰安婦制度にかかわった責任者(氏名不詳)の処罰を求め、東京地検に告訴状を提出した。

おわけて、元慰安婦の補償要求運動を支援している南朝鮮の「韓国挺身(ていしん)隊問題対策協議会」(本部、ソウル)が中心となって、東京地検に告訴・告発状を提出した。

告訴状によると、元慰安婦として知られる韓国人女性たちは、元慰安婦として知られる韓国人女性たちを支援している「韓国挺身隊問題対策協議会」(本部、ソウル)が中心となって、東京地検に告訴・告発状を提出した。

東京地検は「被疑者(告訴)人も特定できないことを理由に受理しなかった。不受理について、来日した「韓国挺身隊問題対策協議会」幹部の李美卿(ミギョン)さんは「当時のことを考えると、胸が痛む。なぜか受理されないのか」と話している。

民事で責任追及へ

韓国の元慰安婦ら 刑事告訴は不受理

読売 2/8 (木)

「強制的に日本軍の従軍慰安婦にさせられた」と韓国人の金順徳さん(仮名)と韓国の「韓国挺身隊問題対策協議会」が七日、東京地検に告訴・告発状を提出した。

慰安婦制度の責任者(氏名不詳)の刑事処罰を求める告訴状、告発状を東京地検に提出した。しかし同地検は、国内法の体系を取っていないなどとして受理しなかった。

このため民事訴訟に切り替え、国を相手に賠償義務と「不処罰」による賠償義務確認だけを求める訴訟を提起する方針を決めた。提訴は東京地裁か、主に国際舞台でのアピールを狙って国際条約で設置されている常設仲裁裁判所(オランダ)

告訴状によると、元慰安婦として知られる韓国人女性たちは、元慰安婦として知られる韓国人女性たちを支援している「韓国挺身隊問題対策協議会」(本部、ソウル)が中心となって、東京地検に告訴・告発状を提出した。

TVは NHK 12.5.6 10 まで
6時~9時 2 枚映写機